

経営比較分析表（平成30年度決算）

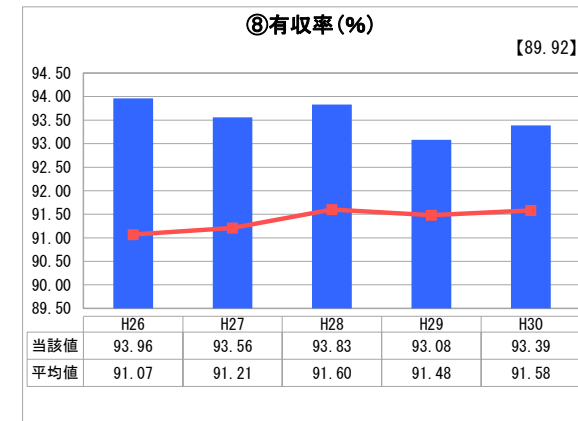
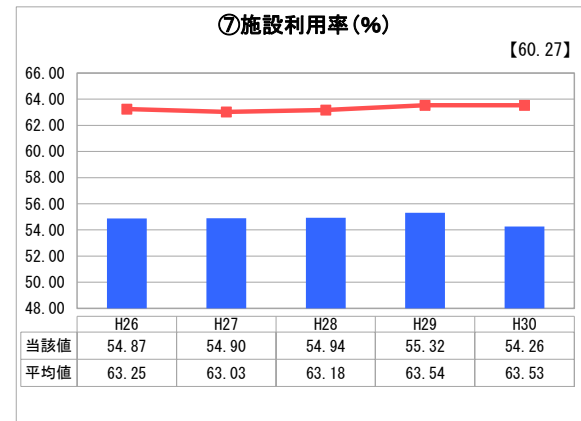
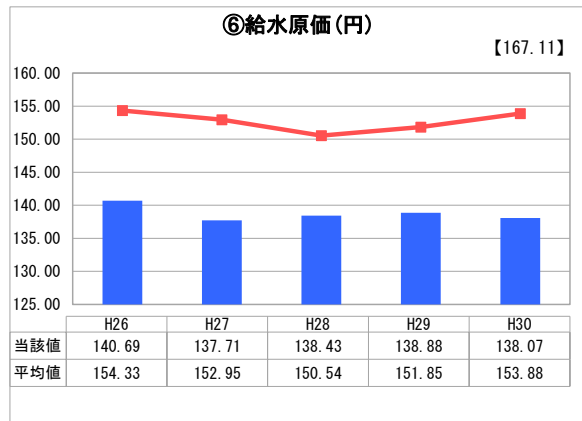
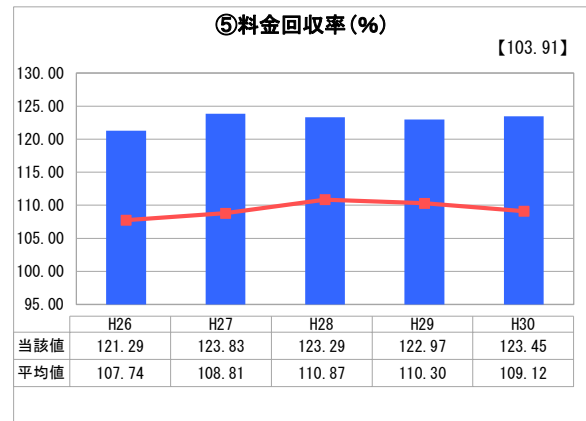
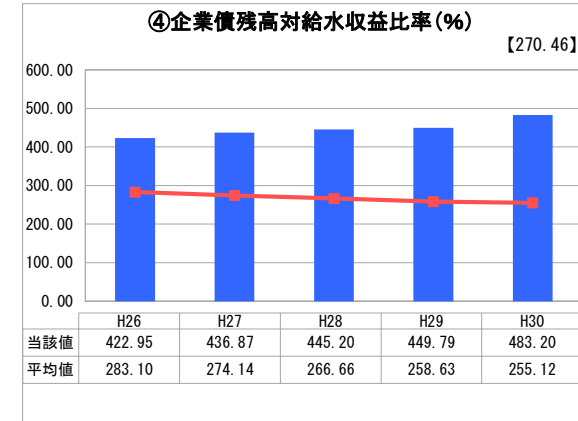
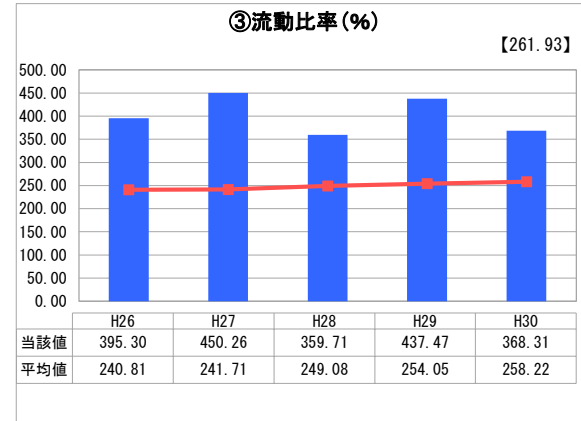
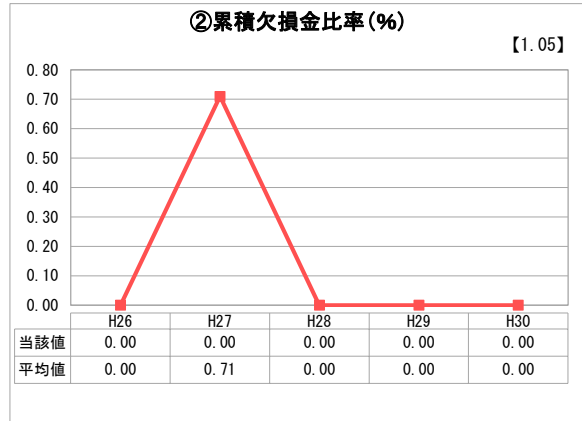
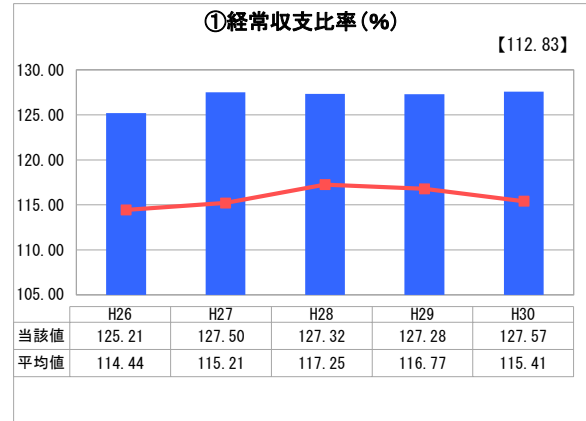
高知県 高知市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A1	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	60.81	95.39	2,736	

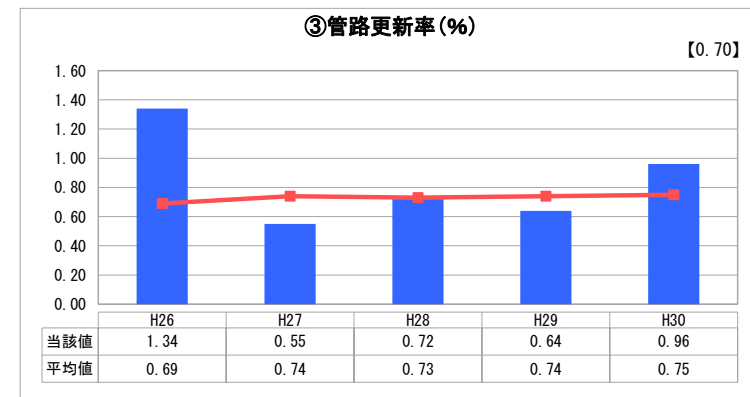
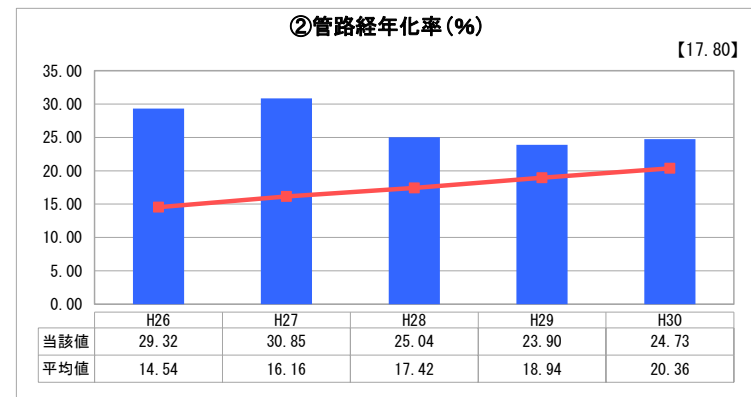
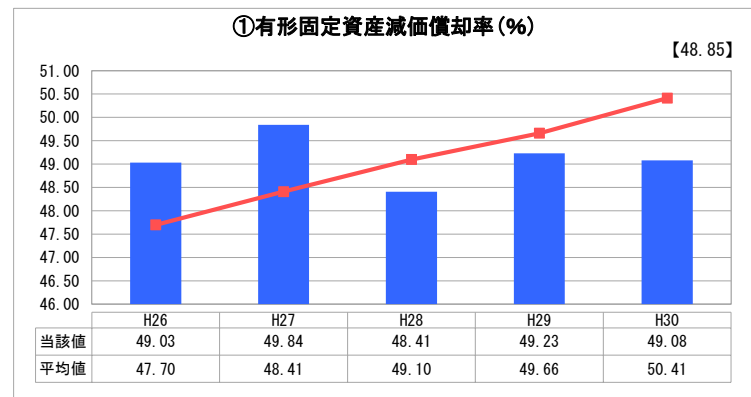
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
330,167	309.00	1,068.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
312,958	91.60	3,416.57

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、流動比率、料金回収率は類似団体平均よりも高く、給水原価は類似団体平均よりも低くなっている。累積欠損金比率は0%で推移しており、これまでの経費の削減効果等によって、効率的で健全な経営が保たれている状況と考えられる。ただし、企業債残高対給水収益比率は類似団体平均よりも高くなっていることから、今後の企業債発行の抑制や元利償還金に伴う費用の増加等への対応が必要となる。また、有収率は類似団体平均よりも高く、効率的に収益の確保ができてきているものの、施設利用率は類似団体平均を下回っており、今後の施設更新時には、ダウンサイジングを実施していく予定である。

2. 老朽化の状況について

将来的な施設更新の必要性を表す有形固定資産減価償却率は類似団体平均を下回っている。管路の老朽化度を表す管路経年率は類似団体平均を上回っているものの、当該年度に更新した管路延長の割合を表す管路更新率については、平成30年度は類似団体平均を上回った。今後も計画的に管路等を更新し、安定したサービスの提供に努めていく。

全体総括

人口減少や節水意識の定着等による有収水量の減少に伴う給水収益の減少が見込まれる中、老朽化施設の更新や管路の耐震化が急務となっている。平成29年度に、投資の合理化や経営の効率化を前提とした、今後10年間の経営の基本計画となる経営戦略の策定を行っており、将来の水需要を踏まえ、適切な施設や管路のダウンサイジングやスペックダウンを進めるとともに、収支ギャップの解消が見込めない場合は、料金体系の見直し等による収益確保を図っていく。今後も長期的に安定したサービスの提供に向け、経営基盤の強化とともに財政マネジメントの向上に取り組んでいく。